

令和5年度 三次商工会議所 経営発達支援計画 事業評価書

令和5年度の三次商工会議所経営発達支援計画の各事業について、次年度以降の事業の見直し等につなげるための評価を行った。

「令和5年度 三次商工会議所 経営発達支援計画 事業評価委員会」

- 日 時 令和6年5月31日(金) 10:00～11:30
- 場 所 三次商工会議所2階第3会議室
- 出席委員

県立広島大学	名誉教授	藤田 泉
(有) 開成マネジメントサービス	代表取締役・中小企業診断士	塩田 典照
三次市	産業振興部長	児玉 隆
三次商工会議所	専務理事	八谷 尚幸

- 事業評価基準について
事業評価にあたっては下記の基準で評価を行った。

評価値	評価基準
A	十分達成している
B	概ね達成している
C	どちらかという達成していない
D	未達成

- 評価結果
評価者は3名で各事業の評価結果は下記の通り。
表中の数字は該当する評価を行った評価者の人数。

評価事項／評価値	A	B	C	D
1 地域の経済動向調査に関すること	3			
2 需要動向調査に関すること		3		
3 経営状況の分析に関すること	3			
4 事業計画策定支援に関すること	2	1		
5 事業計画策定後の実施支援に関すること	2	1		
6 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	3		1	
7 経営指導員等の資質向上等に関すること	3	1		

(委員からの意見、コメント等)

委員 数値目標については達成していて、少人数で良く実施できていると思う。
定量評価は説明がありわかりやすい。
定性評価については評価が難しいので、定性評価の中身についてもう少し説明をしてもらいたい。
(経営発達支援計画) 2期目以降なにをどうしたらいいのかが見えない。
事前にもらった評価資料の中ではどれが伴走型支援なのかが分かりにくいので、伴走型支援にかかわるものはどれなのか分かるようにしてもらいたい。
三次の商業活動の質的・量的な課題を情報提供してほしい。
事業者本人の本質的課題・弱み・強み・課題解決の資料があると良い。
事業者にフィードバックした後にどんな意見が出たのか、それが分かればどのような戦術が良いのか考えることができる。
実施状況を1行でもいいので端的に書いてあると良いと思う。外部の人間からすると中身が少し見にくい。

事務局 定性評価についてはコメントを入れていくよう改善していきたい。

委員 「1. 地域の経済動向調査に関すること① 地域の経済動向分析」は△がついている項目であるが今後情報提供する予定はあるのか。

事務局 個社支援を行った事業者へは情報提供済である。資料枚数も多く、配布は難しいので商工会議所HPへ掲載し活用していく予定。

委員 地域中小企業支援センターで実際に事業者の方と接する機会があるが、伴走型支援についてはなかなか難しいことが多いと感じる。
指導やコンサルは伴走型支援の基本であるが、(成果が出るまで)時間もかかるし難しい。
「5. 事業計画策定後の実施支援に関すること」については定量評価、数値的なことだけで評価することは難しいと思う。
既存のフォーマットを与えて実行できるのであれば効果は見えやすいが、経営者の意識を高め、事業の問題点を見つけて、課題を解決・改善していくのはすぐに結果がでにくいと思う。
目標数値等の数字だけで評価するのではなく、実施状況等の内容を評価するのが良いのではないか。

事務局 事業計画策定期間が事業者によって違うので、売上や利益率増加の数値的な評価をするのが少し難しいところもある。しかし、経営発達支援計画の申請にあたって国は数値目標を求めているため、どうしても数値的な定量評価になってしまう。今後は実施内容等も評価資料に加えていきたい。

委員 BIZ ミルなどの経営支援システムや分析ツールがあるが、バージョンアップはできているのか？

- 事務局 インストール型のソフトウェアではなくクラウド型なのでバージョンアップは常にできている
- 委員 DX 推進に向けた取り組みを行っているが、三次の DX や EC の取り組み状況はどうなっているのか？積極的な事業者が多いのか？。
- 事務局 データ等がないので詳しくは分からないが、肌感覚的に言えば全国平均以下だと思われる。DX 以前の IT 化までいっていない事業者の方が多い。
- 委員 DX に取り組むことでメリットがあるのか分かっていない事業者が多いのではないかな？
- 事務局 メリットが分からないというより、DX 化する必要性を感じていない事業者が多いのではないかな。現状のアナログでの処理で不都合がないため、無理に DX を進める必要がないというのが実態ではないかな。
- 委員 それではこれからの事業の発展がないのではないかな？
DX に取り組んでいく方が効率的な事業展開ができるし、市場も拡大できるのではないかな。
- 事務局 時代の流れや事業環境の変化に合わせ DX 推進は必要であるが、早急に進めるのは難しいと思われる。それぞれの地域にあった DX を推進していく必要がある。商工会議所としては事業者の負担にならないよう「身の丈 DX」を勧めている。現在、三次市の DX コーディネーターと連携してスマートフォンで簡単に利用できる「入出金アプリ」を試作している。まずは手書きで出納帳を記録している事業者はこのアプリを使ってもらい、DX のメリットを伝えていきたい。
- 委員 評価資料の自己評価について、現在は「○・△・×」での評価方法であるが、他県では「パーセンテージ」で評価しているところもある。
評価方法の変更を検討してみてはどうか？
- 事務局 「パーセンテージ」で評価した場合は評価基準の設定が難しいのではないかなと思う。
- 委員 達成率 80%～100%は A・60%～80%は B・20%～40%は C・0%～20%は D として自分たちで基準を設定しても良いのではないかな。
- 委員 発達支援計画の事業評価を次年度へどう活用するのが大切である。
事前にいただいた資料以外に当日配布の資料があれば「当日資料配布」等のコメントがあるとこちらも準備できるので助かる。
- 事務局 評価委員会で出た意見を集約し、次年度の事業へつなげていきたい。
また、評価方法や資料配布等についても検討したい。
- 委員 事業者の物価高騰等による価格転嫁は進んでいるのか。

- 事務局 価格転嫁出来ていない事業所が多い。税込み価格で表示しているところが多く、値上げしにくいというのが現状。
インボイス制度等もはじまったのでこれからは外税にしていた方が良いのではないかという提案はしているが、なかなか実施できていないのが現状である。
三次商工会議所が実施した「令和6年3月期 三次市景況調査」からもわかるように採算DI値も悪化しており、数値からも十分な価格転嫁ができていないことが読み取れる。
- 委 員 大企業は価格転嫁しやすいと思うが、中小企業や小規模事業者はかなり難しいと思う。
- 委 員 「4. 事業計画策定支援に関すること」について、セミナーを実施してどういう反応があったのか。
- 事務局 セミナー開催時にはアンケートを実施している。
要望等を確認し、改善をおこなっている。
- 委 員 「5. 事業計画策定後の実施支援に関すること」について、事業者が抱える問題や課題がどのように整理され、解決しかが分かると評価委員としては助かる。
- 事務局 今後は定量評価だけではなく、実施状況や課題解決方法等の説明も加えるように検討していきたい。
- 委 員 新型コロナ禍の時よりも実施事業が増えてきたのは良いと思う。
新型コロナ感染症蔓延を通じて得たものもあったのではないかな。
- 事務局 セミナーのオンライン開催等のノウハウは新型コロナ禍で得たものだと思う。
今後も対面とオンラインの両方で開催していく予定である。